

第1章 計画策定の背景と目的

高岡市、氷見市、砺波市、南砺市は、沿線地域を南北に走る JR 城端線・氷見線と、東西に走るあいの風とやま鉄道により鉄道路線で結ばれるほか、沿線地域内外を繋ぐバス路線や万葉線など、多様な公共交通機関により結ばれている。特に、城端線・氷見線は、通勤・通学者を中心に、従来から沿線住民の日常生活の足として、多くの方に利用されてきた。

平成 27 年 3 月には北陸新幹線が開業し、首都圏と沿線地域が、新たに新幹線新高岡駅によって結ばれている。新幹線新高岡駅に隣接して城端線に新高岡駅が新設され、ビジネス目的、観光目的などで、新高岡駅を経由して多くの利用者が沿線地域と首都圏を行き来しており、城端線・氷見線は、新幹線を介した新たな広域交流の裾野を広げる役割も担っている。

一方で、沿線地域では少子高齢化や人口減少が進展し、公共交通機関の利用者の減少や、交通サービスの運営・維持に係る負担の増加など、地域公共交通を取り巻く環境は厳しさを増すことが予想される。住民が自立した生活を営むことができるためには、公共交通を介した移動手段の確保は不可欠であり、地域公共交通の維持・改善への取り組みは、将来のまちづくりを進める上でたいへん重要な施策となる。

城端・氷見線活性化推進協議会では、平成 24 年 3 月に「城端・氷見線地域公共交通総合連携計画」を策定し、「周辺地域が連携した城端・氷見線の駅・鉄道の活性化」を理念に掲げ、北陸新幹線の開業を控える中で、利用者の利便性向上と利用拡大の各種の取り組みを進めてきた。これらの取り組みを更に発展させ、沿線地域の活力増進に繋げていくためには、駅・鉄道の枠を超え、あいの風とやま鉄道、バス路線、万葉線など、多様な公共交通ネットワークを、現在の利用実態、利用者の利用意向に即して再編するとともに、沿線市の将来の都市ビジョンも踏まえながら、新たな利用促進策に取り組んでいくことが必要である。

沿線地域には、豊かな観光資源と、魅力ある多様な産業が集積している。これらが新幹線により首都圏と結ばれることで、日常生活、観光利用面で、沿線地域には大きなメリットがもたらされることが期待される。新たな地域公共交通網形成計画では、これまでの城端線・氷見線の利用実態を踏まえ、沿線住民の日常利用はもとより、新幹線開業による効果を圏域内に波及させ、活力ある経済社会を維持・発展させていくための地域公共交通の利用促進策について、多様な交通ネットワーク網を連携させながら、検討を行っていく。計画期間は5年間とし、沿線地域が、自立した都市・生活機能を包括する広域的な地域として持続していくよう、計画の策定を行うものである。